

# 大腸カメラを受けられる患者様へ

## 【検査目的】

下部消化管内視鏡検査（大腸カメラ）は、大腸（直腸から盲腸）の病気（炎症・潰瘍・ポリープ・がんなど）を発見し、適切な治療を考えるために行います。

## 【検査前日・当日】

食事は夜9時までに食べ終えてください。その後は翌日大腸カメラが終わるまで絶食です。

水分は摂っていただいてもかまいません。（水・お茶・スポーツドリンク）

当日は説明されたお薬のみ、朝7時までに服用してください。

## 【検査の方法】

多量の腸管洗浄剤を服用し、トイレに通って腸の中をきれいにします（前処置）。便の状態がきれいになった後、カメラを肛門から挿入し、大腸を観察します。検査時間は15分～30分程度です。大腸の長さや走行は個人によって異なり、過去に手術を受けた場合など、腸管が狭くなることがあります。そのため、検査時間にも個人差が生じることがあります。

検査中に何か異常を認めた時、または疑われた場合は、必要に応じて次のようなことが行われます。

- ① 粘膜組織の一部を採取し、病理検査を行います  
（痛みは伴いませんが、検査後3日間の禁酒が必要です）。
- ② 病変部位に色素を散布し、コントラストをつけることで診断の手助けをします。
- ③ 出血が認められた場合には、電気の熱で出血点を焼くなど、止血処置を行います

## 【病理検査の費用について】

通常病理検査で得られた結果では診断が確定しない場合や、より詳細な評価が必要と判断された場合には、追加の検査（再検査、特殊染色、免疫染色、遺伝子検査など）を行うことがあります。これらの追加検査には別途費用が発生し、後日請求させていただくことがあります。

## 【起こりうる偶発症】

- ① カメラが粘膜を傷つけたりすることによる出血や穿孔(穴があくこと)
  - ② ポリープ切除や粘膜組織の一部を採取した際の出血、穿孔
  - ③ 使用する薬剤によるアレルギー、ショック
  - ④ 多量の腸管洗浄剤を服用することにより、腸に負担がかかり、腸管が破裂
- 日本消化器内視鏡学会による全国集計では、下部消化管内視鏡検査に関連する偶発症は0.012%と報告されています。上記のような偶発症を避けるべく細心の注意を払いますが、生じたときは最善の処置を行います。輸血や開腹手術が必要となる場合があります。やむなく処置(入院、手術を含む)が必要になった場合は、通常の保険診療となります。予めご承知おきください。

※裏面に続く

**【内視鏡の消毒について】**

当院では 1 回の検査が終了する度に、カメラを含めた関連機器の消毒・滅菌処理をしておりますので、安心して検査をお受けいただけます。

**【当日の持ち物について】**

大腸カメラは多量の腸管洗浄剤を服用するため、何回もトイレに通う必要があります。また、検査中も腸の中を水で洗い流して観察しやすくします。そのため、衣類（下着や肌着など）が汚れることがあります。あらかじめ、汚れた時のための衣類をご持参していただいた方が安心です。

## 大腸ポリープ切除術について

### 【ポリープ切除】

ポリープがすべてがんに進行するわけではありませんが、サイズが大きくなるにつれて、一部ががん化する可能性が高まります。ポリープが見つかった場合、日帰り手術（短期滞在手術）として検査中に切除することが可能ですが、あくまで小さいポリープを対象とし、出血などの合併症が生じないよう、ご本人も生活制限を厳守できる方が対象となります。

### 【切除の方法】

カメラの先端からスネアというワイヤーを出して、ポリープにかけて切除します。治療の時間は、観察のみの場合より15分～30分程度余分にかかります。

### 【入院ポリープ切除となる場合】

■安全のため、ポリープの数や大きさ、形状によっては、後日あらためて1泊2日入院、もしくは2泊3日入院してポリープ切除を行います。

■透析治療を受けている患者様、抗血小板薬・抗凝固薬を服用されている患者様は服用状況に関わらず、日帰り手術はできません。後日改めて2泊3日入院してポリープ切除を行います

### 【起こりうる偶発症】

手術に相当する治療なので、通常の観察よりも偶発症の危険性は高まります。

主な偶発症は、出血と穿孔(大腸に穴があくこと)

日本消化器内視鏡学会による全国集計では、ポリープ切除に関連する偶発症は0.34%と報告されています。上記のような偶発症を避けるべく細心の注意を払いますが、万一生じたときは最善の処置を行います。輸血や開腹手術が必要となる場合があります。やむなく処置(入院、手術を含む)が必要になった場合は、通常の保険診療となります。予めご承知おきください。

### 【ポリープ切除後の予定と注意】

出血予防のために、1週間日常生活の中で制限していただく必要があります。

- ① 禁酒
- ② 長湯(血行の良くなること)を避ける
- ③ 刺激物を避け、消化の良い食事をとる
- ④ ウォーキング、ゴルフなどの運動を避ける
- ⑤ 出張や旅行などの遠出を避ける(長時間続く振動)
- ⑥ 重い荷物を持つなど、腹圧をかけない

※上記が都合で避けられない場合、検査日を変更するか、検査のみを受けて日を改めてポリープ切除を受けて下さい。

## 麻酔使用について

### 【麻酔の目的】

内視鏡検査は、通常意識のある状態で行います。検査時にはある程度の苦痛を伴いますが、苦痛を強く感じる方に対して患者様の希望により静脈麻酔を使用し、苦痛を軽減して内視鏡検査を受けることができます。以下の内容を十分ご理解し、同意いただきますようよろしくお願いいたします。

### 【麻酔の方法】

血管に針を穿刺し、静脈内に麻酔薬を注入します。

### 【静脈麻酔に伴う偶発症】

- ① 使用する麻酔薬による、アレルギーや基礎疾患の悪化
- ② 血圧低下、呼吸状態の悪化、覚醒遅延(なかなか目覚めない)、健忘(検査後の記憶がなくなる)など
- ③ 注射部位の炎症、静脈炎、血管痛
  - 血管穿刺については最大限の注意を払っていますが、血管の状態によっては一度の穿刺では血管確保ができず、何度か穿刺をする場合があります。
  - 穿刺時は針による軽度の痛みがありますが、まれに血管と神経と一緒に走行している場合があります、強い痛みを感じることがあります。その際には、すぐ介助者にお伝えください。
  - 麻酔薬の特性として、注入時に血管痛を伴う事があります。麻酔薬がもれていなくても痛みを感じることがあり、まれに痛みが持続することがありますが、時間とともに軽減していきます。
  - 検査中の無意識な体動などにより、麻酔薬が血管外に漏れてしまう事があります。その場合、皮膚の腫れ、色素沈着、痛み、熱感、しびれなどの症状が 1～2 週間続くことがあります。多くは自然に治まりますが、まれに痛みが続く、麻痺・腫れなどの症状が残る場合があります。

日本消化器内視鏡学会による全国集計では、静脈麻酔に関連する偶発症の発生頻度は 0.0013%と報告されています。上記のような偶発症を避けるために、下記に該当される方は麻酔が使用できない場合がありますので、当日内視鏡センターにてご相談ください。

- 大豆・卵アレルギー
- 呼吸器疾患(喘息・肺気腫など)
- 心疾患(心不全・狭心症・心筋梗塞・不整脈など)
- 肝疾患(重度の肝硬変など)
- 抗てんかん薬服用中
- 妊娠中及び可能性がある方 授乳中(検査後 12 時間の断乳が必要です)
- 重症筋無力症
- 急性閉塞隅角緑内障

※裏面に続く

検査中はモニターで観察しながら細心の注意を払いますが、万が一、偶発症が生じた時は最善の処置を行います。薬剤投与などが必要になる場合があります。やむなく処置（入院などを含む）が必要になった場合は、通常の保険診療となります。予めご承知おきください。

### 【麻酔使用にあたっての注意】

静脈麻酔中は、ほとんどの方が検査中であることの自覚がなく、眠っている状態になるため、画面を見たり話をしたりすることができません。

麻酔の効果や覚醒時間については個人差があります。検査後の説明を聞いていただいた後でも、眠気やふらつきが残る場合があります。

■静脈麻酔の使用後は、患者様の状態に応じて内視鏡センター内で1時間ほど休憩し、ご帰宅していただきますが、スタッフが覚醒確認を十分にさせていただきますが、ご自身でも覚醒を確認されたうえご帰宅いただくよう、お願いいたします。

■静脈麻酔の使用後は、覚醒の程度によっては歩行にふらつきが生じます。ヒールやスリッパなど歩きにくい靴を履いてこられると、転んでしまう可能性があります。検査当日は歩きやすい靴、履きやすい靴で来院してくださいますよう、お願いいたします。

■静脈麻酔の使用後は、車・バイク・自転車の運転をしないでください。

静脈麻酔使用後の運転は自己責任となります。万一事故が起こった場合、当院に責任はありませんのでご了承ください。また、ご家族が付き添ってくださることをお勧めします。